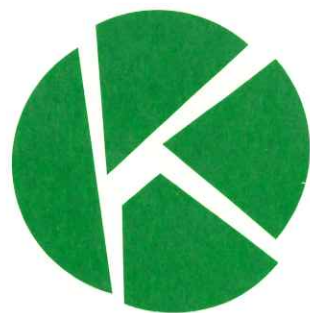


**KIDS
DESIGN
CONCEPT
BOOK
2016**



キッズデザイン
コンセプトブック 2016



キッズデザイン 開発ストーリー 2016

かつてこの国にあった知恵や慣習を現代に活かす。

懐かしくも新しい未来、

それがキッズデザインの目指す

ひとつの形であることを教えてくれる。

地域や高齢者、専門家との共創が

新たな価値を生み出す。

多様なつながりこそ、

子育ての複雑な課題を克服する

唯一の手段であることが明らかになる。



東京ゆりかご幼稚園 十里山教育

東京都八王子市の森に囲まれた園舎と園庭から子どもたちの元気な声が聞こえる。



子どもたちは園庭や遊具にそれぞれの「居場所」をつくるのが得意だ



園舎は木質感でいっぱい。内と外をうまくつなぐ空間構成だ

学校法人東京内野学園東京ゆりかご幼稚園は、木造建築の園舎で深い庇が目を引き、園庭には里山の地形を活かした手作りの遊具や棚田、小川ビオトープが点在する自然豊かな環境の中にある。東京ゆりかご幼稚園園長の内野彰裕氏が語ってくれた。

「当園は創立40周年を迎える年に、豊かな自然環境を求めて移転しました。開発前のこの地は草が生い茂り、水はけの悪い荒地でしたが、豊かな里山に囲まれ、大きな可能性を感じました。敷地は2.2ヘクタール、周囲の森は47ヘクタール、こ

の広大な大自然に移転開園までの3年間、子どもたちを連れて来ては遊ばせ、小川、池、棚田、畑等を親子で造り、里山の環境を整えていきました」。

建物で象徴的な3.5メートルの深い庇は特殊なH型断面のLVL(単板積層材)で、13・5メートル木の梁によって片持ちで支えられ、自然と教室とが境界なく連続して、農家の縁側のような使い方もできる。日本の木材製造技術と加工技術は高度に発達しており、住宅用に流通している高性能で安い木材や自動プレカットによって建物のコストを最小限に抑え、木サツシや床材は再利用した。

そして大きな特徴が里山教育のプログラムである。自然と関わり、その恵みをいただき、恩返しをする。広い園庭で展開される多彩な活動は子どもに「生きる力」を身につけてもらいたいという思いが込められている。内野園長の土に触れ、植物に触れ、動物に触れた体験が、同園の里山教育の根底にある。

「里山教育は自然、環境、食農、労作、そしてESD(持続可能な開発のための教育)を方針としています。里山の四季の変化を肌で感じながら、自然の遊びに没頭し、里山の循環に寄り添いながら日々を過ごしています。

森の中では特別な遊具がなくても1日

中、夢中になって遊べます。小川ピオト
 プでは、メダカやドジョウ、カエル等さま
 ざまな生き物を探し採取して観察し、同
 じ場所に帰してあげます。小さな命を
 大切に育む気持ちを育み、科学的に物事
 を考えられるきっかけを与えてくれます。
 棚田では稲を育てます。手間をかけて、
 汗を流して、物事を成す労作を通して、
 お米1粒のありがたみ、命をいただくこと
 への感謝の気持ちを学びます。畑では堆肥
 を使った土作りを経て、野菜を育てます。
 収穫後は調理して食べたり、給食のメニュー
 に使ったりします。子どもたちは自然と
 園舎とが調和した理想的な里山環境で心
 身ともに健やかに育ち、そして巣立って
 いきます」。

入園を希望する子ども達の親はこの自然
 環境を活かして豊かな体験をして欲し
 い、という人が多いそうだ。その環境に魅
 せられ、今では1時間をかけて遠方から
 通園する子どもも増えた。最近では韓国
 や中国など、海外からの視察も増えてい
 るという。里山教育は日本の文化と思わ



深い庇はこの園舎の象徴。中間領域とも呼べる100mのえんがわが印象的



里山環境を活かし、自然とふれあい循環を感じて育っていく

れがちだが、グローバルスタンダード化し
 ていく日も遠くないようだ。
 「今後は国際的な交流が重要だと考えて
 いますし、日本から里山教育の良さを発信
 していければと思います。規律正しさや
 思いやりの心、ごみを捨てないなど、日本

人の行動や精神がいつたいどうやって育ま
 れるのか、幼児教育にその原点があるの
 ではないかと注目されているのかもしれ
 ません。その意味で、東京からこうした
 価値観を発信できることは意義がある
 ことだと思っています」。





最優秀賞 [内閣総理大臣賞]

東京ゆりかご幼稚園 + 里山教育

学校法人 東京内野学園 東京ゆりかご幼稚園
渡辺治建築都市設計事務所
リズムデザイン = モヴ
三高設計

受賞理由

里山風景になじむ木造平屋の建物は、広い開口部と深い庇によって開放的かつ自然とつながる空間となり、自然換気によってエネルギー消費を抑えた快適な環境をつくりだす。子どもが主体的に環境と関わり、自然、環境から食農、労働といったテーマを一体に捉えた教育は、ESD(持続可能な開発のための教育)に代表されるグローバルな取り組みにつながる。活動内容、地域と地理、建築のすべてが高次元で融合した、懐かしくも新しい教育のあり方は、キッズデザインの理念を示すにふさわしいと考え、最優秀賞とした。

